



7月度の御書

し じょう きん ご どの ご へん じ  
**「四条金吾殿御返事」**  
 (世雄御書)

あなた（＝四条金吾）のことは、いつも法華経・釈迦仏・日天子に祈っています。なぜなら、あなたが法華経の命を継ぐ人だと思っからです。

意味

殿の御事をば、ひまなく法華経・釈迦仏・日天に申すなり。その故は、法華経の命を継ぐ人なればと思っなり。

御文

(御書新版1590ページ、御書全集1169ページ)

“平和の心”を未来へつなごう

やあ、みんな、元気ー？ ライオン博士のキング君だよ！

今回は、日蓮大聖人の弟子・四条金吾さんのお話。金吾さんがつらい状況にあった時、大聖人からもらった“はげましの言葉”を学んでいくよ。

武士である金吾さんは、そのころ仕事上のえらい人である江間さんから厳しくせめられていた。原因は“金吾がわるいことをした”というウソのうわさが広がり、江間さんがそれを信じてしまったからなんだ。江間さんは金吾さんに「信心をやめなければ、君の土地を取り上げるぞ！」と強くおどした。

家も仕事もなくなってしまうかもしれない。それでも金吾さんは、絶対に信心をやめるものかと歯をくいしばってたえていた。

くやしさと不安でいっぱい金吾さんに、大聖人は、お手紙を送ってくれたんだ。

「仏法というのは、正しく生きるための教えなんだよ。だから最後には、必ずあなたが勝つ。

私は、金吾がこの苦難を乗り越え、あなたも周りの人も幸せになれるように祈っているよ。

私が金吾のことをこんなふうに祈るのはなぜか。それ

は、あなたが日蓮と同じ、法華経の命を受けつぐ大切な弟子だからだよ

「法華経の命」とは、自分のためだけでなく、周りの人々、そして世界中の人々の幸せのために行動する“心”のこと。それは、広宣流布のために行動する心ともいえる。広宣流布という、大聖人にとって何よりも大切なちかいをつないでいくのが弟子なんだね。

金吾さんは大聖人の「はげまし」を胸に、「負けないぞ！」と再び決意して信心をつらぬいた。その結果、江間さんから、以前より信らいされるようになったんだ！

池田先生は語られたよ。「私は、この人生の師匠（戸田先生）から、『責任感』という『心の宝』を受けつぎました。自分が立ち上がって、世界の平和と人類の幸福という広宣流布を成しとげてみせると決めて生きてきました」「この心の宝を、未来の偉大な指導者であるみなさんも、自分の中に、はぐくんでいってください」

法華経に説かれ、大聖人が一人立ち、創価学会の三代会長に受けつがれてきた広宣流布という“師弟のちかい”を、ボクたちも未来へつないでいこう！